

# 行政自治会だより

第22号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 熊木 津佐雄

## 就任のごあいさつ



古河市行政自治会

会長 熊木 津佐雄

古河市行政自治会の皆様におかれましては、日頃より行政自治会の事業等にご理解、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

この度、古河市行政自治会の会長に選出されました第七地区地区長で、鴻巣一丁目自治会長の熊木津佐雄です。不詳の身には過ぎる重責との思いが募るばかりでございますが、全力を尽くして職責を務める所存でございますので、よろしくご指導賜りますとともに、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

草津白根山の噴火、大阪北部地震、平成30年7月豪雨といった自然災害が発生する中、災害対策、防災について関心が高まっています。もしもの時に備えて、災害対策もさらに進めて行き、防災意識を地域で高めあい、「自助、共助、公助」で協力して行けるように、つなぎ役としての役割を行政自治会が担って参りたいと考えております。

また、少子高齢化も進んでおり、古河市も2025年頃には市民の概ね3割の人が高齢者になると推測されています。

このように地域には様々な課題がありますが、すべての世代が「健康で、安心・安全」で住みやすく、活気のある地域づくりに尽力して行く所存です。

皆様におかれましては、引き続き行政自治会や地区ならびに行政区、自治会の活動にご参加いただき、活気のある地域づくりへのご協力をお願いいたします。

## 自治会長・行政区長委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

平成30年度感謝状受賞者			
地区	自治組織名	氏名	在職年数
第1	石町	岩崎 清	61年
第7	赤松町	有明 三郎	29年7ヶ月
第1	一丁目牡丹会	木塚 晴久	20年
第6	静町	鈴木 國雄	18年
第7	富士見町	小倉 嘉市	15年
第6	緑町	山口 正一	14年
第1	江戸町	阿部 捷一	11年
第3	下山二丁目	木村 榮一	10年
第7	駒ヶ崎	小倉 佐一	10年
第1	四丁目	渡邊 正次	6年
第3	旭	針谷 勇	6年
第4	中田新田東	村上 隆夫	6年
第7	光陽台	青柳 寛	6年
第20	下内	染野 則夫	6年
第4	親和	齋藤 涉	5年
第1	東代官町	大矢 晴一	4年
第9	八幡町	照井 貞治	4年
第9	東牛谷南町	高澤 修	4年
第13	上砂井	太田 元行	4年
第20	加下間	須藤 正夫	4年

(敬称略 在職年数順)

4月27日、とねミドリ館（生涯学習センター総和）において、委嘱状交付式が行われ、自治会長・行政区長と正副地区長へ市長から委嘱状が手渡されました。

続いて在職4年以上で退任された自治会長・行政区長に感謝状と記念品が贈呈され、受賞者20名を代表し、静町自治会の鈴木國雄様が挨拶を述べられました。長い間、ありがとうございました。



市長から感謝状が贈呈されました

# 正副地区長会議報告 役員が決まりました！

4月20日、第1回正副地区長会議が行われました。

この会議で行政自治会の新役員が決定され、新年度の事業計画や予算について協議し、承認されました。

役員名簿及び正副地区長名簿については、次のとおりです。

## 役員名簿

役職名	氏名	地区名
会長	熊木 津佐雄	第7
副会長	五月女 光 男	第13
副会長	那須和 弥	第15
理事	蜂須誠 司	第4
理事	長濱 忍	第9
理事	田中 浩 二	第18
会計	長濱 弘 道	第6
監事	岩元 俊 二	第12
監事	峯本 茂	第20

## 正副地区長名簿

地区名	地区長	副地区長
第1	小堀 英 男 (桜町)	須田 昭 二 (観音寺)
第2	綿引 正 衛 (原)	齋藤 満 (鍛冶町)
第3	吉田 昭 万 (下三)	三村 洋 輔 (下山一丁目)
第4	蜂須 誠 司 (中田町)	上石 詔二郎 (上町)
第5	中村 仁 (中横)	大高 忠 男 (栄)
第6	長濱 弘 道 (三杉町)	英 聖 一 (レヴィールエコステーション)
第7	熊木 津佐雄 (鴻巣一丁目)	野口 勝 彦 (鴻巣二丁目)
第8	尾沼 卓 (リパティヒル135)	鳥本 明 雄 (小堤)
第9	長濱 忍 (東泉町)	古谷 芳 和 (今泉)
第10	山中 禮次郎 (中辺見)	関 正 市 (女沼)
第11	梅谷 聰 (みずきの街)	上田 美智男 (大堤)
第12	岩元 俊 二 (駒羽根住宅団地)	白石 芳 巳 (駒羽根)
第13	五月女 光 男 (内水海)	西澤 市 郎 (高野)
第14	若林 俊 彰 (久能せせらぎ)	落合 秋 男 (久能)
第15	那須和 弥 (諸川西部)	鈴木 榮 治 (東諸川)
第16	梅津 信 男 (上片田宮前)	森 正 吉 (上片田)
第17	齋藤 彰 (下片田)	水出 豊 (大和田上)
第18	田中 浩 二 (仁連江口第二)	渡邊 和 司 (仁連上町五)
第19	湯本 豊 (小立野第二)	鈴木 誠 (大綱)
第20	峯本 茂 (本田山)	平間 基始男 (下尾崎二)

## 新広報委員です！



後列左より、尾沼卓、西村榊、若林俊彰、白石芳巳  
前列左より、蜂須誠司、梅津信男、長濱弘道

広報委員の任期満了により、今号から新たなメンバーの加入を得て広報委員会がスタートいたしました。「行政自治会だより」が平成23年に創刊し、回を重ね第22号を発刊するまでになりました。シリーズの「地区紹介」も今号で終了することとなり、次号から新企画がスタートします。広報委員一同皆様に愛読される紙面構成を心掛けていきます。皆様のご意見等を広報委員または事務局までお寄せ下さい。

(広報委員長 梅津信男)

## 第9回行政自治会親善ソフトボール大会開催される

6月3日(日)快晴に恵まれた市内の各グラウンドで、強豪相手に負けてなるかと一生懸命にプレイ



チャンスの場面で攻守共に思わず力が入ります！

する選手の姿が見られた親善ソフトボール大会。チャレンジの部・エンジョイの部、どのチームも熱い一日となりました。(広報委員 蜂須誠司)

結果、成績は次のとおりです(各ブロック優秀賞のみ)。

チャレンジの部(男子) 参加32チーム	A下大野行政区、B関戸行政区、C女沼行政区、D駒羽根行政区、E本田山行政区、F諸川東松原・諸川西松原行政区、G小堤行政区、H上辺見南町行政区
チャレンジの部(女子) 参加4チーム	女沼行政区
エンジョイの部(男女混合) 参加40チーム	A雷電一丁目自治会、B新久田三丁目自治会、C坂間町自治会、D仁連江口第二行政区、E雷電二丁目自治会(A)、F松原町自治会、G原自治会、H下山一丁目自治会、I中田町自治会、J下山二丁目自治会

## 地区紹介（第20回）～第14地区～

第14地区は、久能、下大野、柳橋、葛生、久能せせらぎの5行政区で構成されています。地区内には、古河市役所総和庁舎・中央公民館・中央運動公園・はなもも体育館など公共施設がありますが、商店街は少なく農家住宅と新興住宅の密集地が点在しています。

第14地区では「さくら和の会」の名称でコミュニティ活動を推進しており、4号バイパスクリーン作戦の他に「さくら和の会祭り（踊り・歌・カラオケなど）」を毎年盛大に開催して、地区間での交流が盛んにおこなわれています。



久能のお囃子会による勇壮なお囃子「さくら和の会祭り」

**久能行政区**は、県道境・間々田線を挟んで西側は市街化区域で新興住宅地、東側が市街化調整区域で農村地域となっており、8町内会、約500世帯が暮らしています。行事は、三世代交流事業（むつみ会、女性部、子供会）として、5月のさつま芋苗植え、8月の草取り、10月の収穫を通して世代間交流を図っています。新旧住民の交流事業としては、8月に納涼祭（盆踊り）、10月にコミュニティセンター祭り（カラオケ、子供たちによるダンス、お囃子等）を開催しています。

また、久能コミュニティセンター西側にある宝性院観音堂は、約300年前から12年に一度（午年）に3月から4月にかけて開催される伝統行事、葛生坂東観音御開帳の14番札所（札元）となっています。御開帳は、行政区を挙げて開催運営しており、期間中は多くの参拝者が訪れます。五霞町、古河市、八千代町、野木町に41の札所があり、地域の融和、繁栄を願い次代に継承されていくことでしょう。

**下大野行政区**は、東西約4.5km、南北2.2kmの広い範囲を擁し、25町内会885世帯で構成されています。西側は、市街化区域で住宅の多い地域で、東側は農業が中心の地域です。行政区内には、古河市役所総和庁舎、中央小学校・下大野小学校があり、また、中央運動公園では土日に各種大会が開催され多くの人々が訪れます。行事としては夏祭神輿渡御・功労感謝の会・市民運動会・14地区さくら和の会祭り・はなももマラソン応援などを行っています。地域的にみると天災は少ないですが、今後も安全・安心な街づくりを住民とと

もに考えていきたいと思えます。

**柳橋行政区**は、おおよそ新4号国道の東側で県道つくば古河線の北側に位置し、昔からの田園風景が残る250戸余りの世帯が暮らす市街化調整区域にあります。しかし近年では、筑西幹線道路沿いに流通関連の倉庫等の開発が進み、里山の風景が様変わりをしてきています。地域の行事では7月の夏祭りとして大人と子供の神輿が山車とともに当地域を賑やかに渡御します。また、11月の秋祭りでは、市指定文化財の「柳橋磐戸神楽」が愛宕神社に奉納されます。

**葛生行政区**は、9町内会・297世帯・約1300人が暮らしています。圏央道の五霞IC・境古河ICも近く、新4号国道が走っており、東京や宇都宮方面にアクセスしやすい恵まれた立地にあります。山林にはクワガタやカブトムシ、川にはドジョウやエビガニなどが生息し自然豊かな地域です。7月には、9町内会を神輿やお囃子会の山車が練り歩き、地域の町おこしをしています。農業も盛んで諸外国（ベトナム・カンボジア）から多数の研修生を受け入れています。県西地区で2校しかない工業高校のうちの一つである総和工業高校があり、就職内定率100%を達成しています。そんな葛生が大好きで地域発展（安全・安心）のために頑張っています。

**久能せせらぎ行政区**は、配電盤工業団地に隣接し北利根工業団地にも近く、20数年前に開発された住宅団地の321世帯で構成されています。近隣の企業や東京方面の就職者が多く暮らし俗にいうサラリーマン家庭の多い地域です。毎年8月には、せせらぎ公園で納涼祭を開催しており区民の交流を図っています。太鼓やお囃子の演舞、模擬店も出店し、夜には提灯が灯ります。（第14地区 地区長 若林俊彰）

### 第14地区 区域



# 市内歴史散歩（第20回） - 680年前の単身赴任 -

日野自動車古河工場が本格稼働を始め、日野工場のある東京都日野市から古河市に移ってこられた社員の方々も大勢おられると思いますが、実は今からおよそ680年も前の南北朝時代の動乱期に、現在の東京都日野市域から妻子を残して古河・結城地方に軍事動員で派遣された武士がいました。



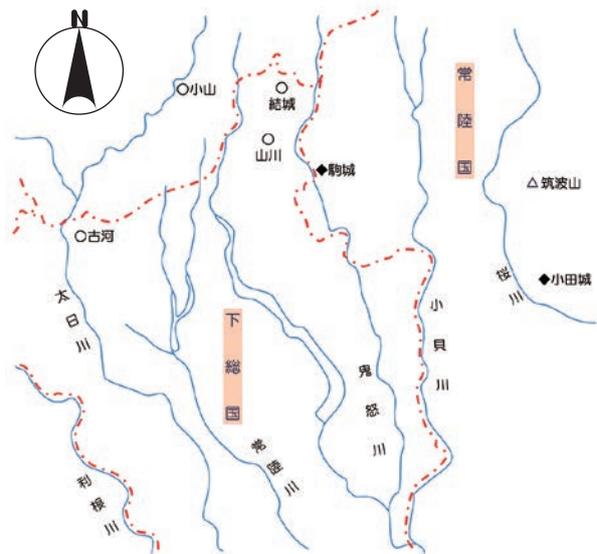
日野自動車古河工場

彼の名は山内経之<sup>やまのうちのつねゆき</sup>といい、武蔵国多西郡土淵郷<sup>むさしのくに たさい</sup>（現在の日野市周辺）を本拠とする武士でした。彼が古河地方に派遣された当時は、鎌倉幕府滅亡後の建武新政崩壊を経て、公家も武士も北朝と南朝に分かれて全国各地で争っていた時代でした。その中でも南朝方の中心人物であった北畠親房<sup>きたばなけちかふさ</sup>が東国に下向して小田城<sup>おだ</sup>（現つくば市小田）に籠もっていたことから、特に常陸・下総地域は両軍の間で激戦が繰り広げられていました。

南朝方の最大拠点である小田城と対峙する北朝方では、室町幕府を開いた足利尊氏の側近の一人であった高師直<sup>たかうしなほ</sup>の従兄弟・高師冬<sup>たかうしふゆ</sup>が、暦応2年（南朝年号では延元4年=1339年）4月に関東に派遣され、それにともなって武蔵地方の武士たちも大勢軍事動員されました。山内経之もその一人で、「新井殿」「青柳殿」といった近隣の武士たちとともに自己負担である戦費の調達に苦労しながら、師冬に従って鎌倉から下河辺荘<sup>しもこうべのじょう</sup>（古河周

辺）に進出し、そこに滞陣します。このときには、地元豪族の結城氏・山川氏、そして下河辺氏の一族である幸嶋氏も北朝方として参戦していました。このころ南朝方は、下総と常陸の国境に位置する駒城<sup>こまじょう</sup>（現下妻市黒駒）を拠点として下河辺荘にも進出する勢いだったため、北朝方は古河から山川（現結城市南部）へと軍を進め、10月から翌年にかけて、駒城に籠もる南朝方と激しい攻防戦を続けました。

この戦いに従軍していた山内経之は、驚くことに戦場から故郷の留守家族などに宛てて自筆の手紙を50通も送っており、逃亡する従者、倒れる馬、壊れる兜などに悪戦苦闘しながら、戦地での苦労や妻子を思う心情を書き記していました。それは近年、彼の地元日野市にある高幡不動の本尊不動明王像の像内から、これらの手紙が発見・調査されてわかったものです。彼の死後遺族らが菩提を弔うために、彼が日頃信仰していた不動尊の像内に納めたと考えられています。これらの手紙は、当時の東国武士の戦地での実態を赤裸々に伝えていてたいへん貴重なものであり、その内容の重要性から、平成6年に「高幡不動本尊像内文書」として国の重要文化財（古文書）に指定されています。（北山田行政区 二宮誠）



中世の古河市域周辺図

## 編集後記

平成30年度がスタートして、はや4か月がたちますが、各自治会・行政区において、いろいろな活動等を計画しているかと思ひます。そうした活動等を今後「行政自治会だより」に採り上げていきたいと思ひております。各地区を広報委員が取材等訪れた際には、ご協力をお願いします。また、取材してほしい記事等皆様の意見等をお寄せ頂きたいと思ひております。（広報委員長 梅津信男）

## 行政自治会広報委員会

委員長 梅津 信男  
委員 鶴見 尚司 蜂須 誠司 長濱 弘道  
尾沼 卓 白石 芳巳 若林 俊彰  
北山 正 西村 紳